回会報

155　号

新日本美術協会

事務局
横浜市港南区港南台
1-39-5
鈴木忠義方
℡045-832-0504

編集委員
小高峯夫
富岡ネム
大石　亨
四方公子
早田美智子

原稿常時募集
次号平成28年11月予定

平成二十八年度総会開催される

今年度の総会は六月二十五日午後、東京上野に在る日展会館にて開催された。総会に先立ち、月例委員会が小宮山委員司会のもと行われた。

委員会では事務局長から会員の入退状況や都美術館の次回（四一回展）使用申請書提出等の事務報告、議題として総会式次第、司会者等の確認、石原委員から選抜小品展の結果報告が行われた。小休憩の後引き続き総会に入った。

総会では森屋代表の総会挨拶の後、総合司会に松本委員が、議長に早田委員が選出され、続いて書記に宮嶋委員、議事録署名人に陳委員が指名され議事に入った。

審議に先立ち総会成立数の確認が行われた。

なごやかな雰囲気の総会

二十五日現在、議決権保有会員一九一名に対し、出席者二六名、委任状九一名、計一一七名、成立要件の過半数九六名より二十一名上まわり成立した。

審議は概ね議案書通りすすめられ、質疑として四十回記念展の図録出版について、記念展にふさわしい豪華版出版を期待する趣旨の意見がだされた。この件については、会の財政厳しく、又さらなる会員負担は望めないとの委員会判断がされており前年度並みの廉価版で了解されました。

その他議事内容は、議案書通り説明され承認されました。

第四十回記念新日美展　に向けて

実行委員長　山下利隆

第四〇回記念、新日美展の実行委員長を仰せつかって、一言ご挨拶申し上げます。

新日美諸会員二〇〇名余りの作家、二八〇点余りの作品を予想し、来たる十月四日初日に向けて各事業部会長初め皆様でこの一年間仕事をしてまいりました。

私は第四〇回展が盛会裡に進行します事を思い次のことを大切に考えております。

第一に内外に事故等無きように勤めます。

第二にお客様は神様ですから「丁寧に」対します。

第三に会員皆様のパワーを頂いて、私なりに、頑張りますので何分よろしくお願いし申し上げます。

皆様、作品出来上がりましたか、美術の力とあなたの心で、すてきな作品が出来上がることでしょう。さて、つい先月、三羽の子供を連れた「つばめ」も力強く美しく旅立っていった。

追伸、この会を四〇年間支えて下さった数々の魂に合掌致します。

新委員の紹介

埼玉西支部長
高木　登（絵画）

このたび新日美埼玉西支部長となり、同時に委員も委嘱されました高木です。仕事もしながらなので委員として十分な仕事ができるかどうか不安で、責任と重みを強く感じております。

私は若い頃は油絵を描いていましたが、仕事が忙しくなるにつれ絵を描くゆとりはなくなり２０年以上絵を描く活動から離れていました。しかし、絵は描かなくても絵に対する思いはずっと持ち続け、山に降った雨が伏流水となって地下を流れ続け、あるところで地表に出てくるのと同じように退職を契機に少しずつ絵を描くようになりました。心境の変化もあり若いときに描いていた油彩ではなく今は水彩画を中心に描いています。

水彩画も奥が深く試行錯誤の日々です。書店の美術書のコーナーを見ると水彩画関連の本がたくさん並んでいます。しかも技法書を中心に新刊が次々に出版されていて驚きます。それだけ水彩画に対する世間のニーズと関心が高いということだと思います。この水彩画ブームは画材の面でも起こっていて、水彩関係の画材の販売は増えているという話を聞いたことがあります。新日美展ももっと水彩の出品が増えればと願うところです。

先日第３９回の埼玉西支部展を終了したところです。来場された皆様方からたくさんの励ましの声をいただきました。来場者にアンケートをお願いしたところ１００名の方々から作品展のすばらしさや会員の作品のよさ等について、アンケート用紙に書いていただくことができ、会員一同心強く励まされありがたく感じた次第です。６月は支部展を終えて最初の例会でしたが、この日に新規入会者が３名あり、いっしょに勉強していく仲間が増えたことを何よりも心強く思います。

委員としてはまだスタートしたばかりであり、何もわからない状態ですが課題の解決に少しでも貢献できるよう微力ではありますが努力したいと考えております。よろしくお願い致します。

委員コラム

遊び心

島根支部　田中俊晞

人、それぞれに好きな事や夢があります。

私は子供の頃から手先を動かす事が好きで木彫を中心に創作活動を続けてきました。それも、良い環境と善き師に恵まれたおかげであると感謝しております。私にとってはその時々を刻む自己表現の場であり生活のリズムとして楽しんでおります。創作活動を続けることは孤独で厳しい面もあり、やめようかと思ったことが幾度かありましたがその中で意図する作品が出来たときの感激や彫刻を縁としてある人に出会いその人を通して又善き人に巡り合うというように、色々な職種の方々との交流の輪が広がり支えられながら人生の機微を味わっています。

よく定年になったら何かを始めようと言われる方がおられますが、時の流れと共に、気力、体力が衰えます。彫刻家平櫛田中先生が「六十七十鼻たれ小僧男盛りは百から百から」と名言され百八歳の天寿を全うされました。

一度しかない人生をどう生きるか、余暇をどう活用するかで自分の知らない部分を見出し興味深く追求し見落としていたものが見えて来た時独自の思考が展開して心のゆとりとなり明日への活力が湧くと思います。

また「日々是好日」忘れかけた子供の頃の夢と遊び心を生かした時間が心身も安定した生きる喜びとして気軽に楽しめる一つに身近にある自然の石ころにアクリル絵の具で思い思いの発想で彩色する「石もひと役」を足がけ二十二年続けております。老若男女が一緒に語りながら楽しめる石見、イシミ、アートです。特に感受性の強い子供達に夢や希望を与えながら私にとってもパワーの源になっています。その二十年の歩みを冊子にしました。内容の一部ですが、ホームページフラッシュサイト「石見百景」http://goutsu.com から発信しています。

此の郷土色を生かした活動を続けることで自己の遊び心を糧として、彫刻の道のりを歩みます。石のアート「20周年記念誌」発行によせて。有難うございました。最後に「新日美四〇回記念展」楽しみです。さらなる発展を心より願っている一人です。　平成二八年七月吉日